

# 中日同形語の翻訳

王 暁

---

## キーワード

中日同形語 Chinese-Japanese cognates

語義 Word meanings

用法 Usage

色彩 Connotation

翻訳 Translation

## はじめに

一つの言語からほかの言語への翻訳は微妙な仕事である。中⇄日翻訳も例外ではない。

中日両国語の間に同形語がたくさん存在しているから、中⇄日翻訳は他の言語より簡単ではないだろうかという考え方があるかも知れないが、現実には中日双方の学習者にとって同形語こそ間違えやすいものなのである。

中日同形語は全体から見ると、大きく二種類に分けられる。一つは中日同形同義語で、もう一つは中日同形異義語である。

同じ中日同形語でも「自動車」(“汽车”),「トイレットペーパー」(“手紙”)などのように意味がまったく違うものは,その違いをしっかりと覚えてしまいさえすれば,誤用や誤訳の恐れがない。それ以外のものは,かなりベテランの中日通訳者でも細心の注意を怠ると,同形のワナにはまって意味を取り違えたり,使い方を誤ったりする。

この中日同形異義語には両国語における意味は基本的に同じだがニュアンスの違いがあるもの,または意味は同じだが他の語との組み合わせや使う場所と場合などに違いがあるもの,つまり使い方が違うものあるいは両国語における意味が一部重なっているが,重ならない部分があるものなどが含まれる。

中日同形語は中日言語の比較研究の重要な部分をなすもので,これまでも沢山の研究があったのだが,本論文では翻訳の角度から中日同形語の意味及び用法上の差異を整理し,まとめたいと考えている。

## 1. 同形語とは何か

中国語と日本語はともに漢字で書き表されているものである。両国語の中でその漢字の形が同じである単語を「同形語」と呼んでいる。

同形語は中国語で“同形词”という。概念の定義は違うが,従来“日语借词”と呼ばれてきたものが主として中国が日本から借用した漢語に相当する。“日语借词”とは「日本語から借りてきた言葉」である。現に中国ではそれを外来語の一下位分類として論じられる場合が多い。他にも“英语借词”(英語借用語),“法语借词”(仏語借用語)などがある。

### (1) 日本が中国から借用した同形語

日本語は古来中国から伝わった漢字を用い,中国古典文化の摂取を通じて多くの語彙を日本語の中に吸収してきた。その結果,漢字を音読する熟語す

## 中日同形語の翻訳

なわち「漢語」と呼ばれる言葉が日本語語彙の中で、かなりの部分を占めることとなった。

中国語の語彙が日本へ伝えられた経路・方法には多くあるが、これに関しての従来の研究は豊富であり、ここで簡単に下記の表にまとめてみた。

経路・方法	同形語語例
実物とともに日本へ伝えられた同形語	孔雀・麒麟・芭蕉・牡丹・便箋 文鎮・真珠・宝石・太鼓・菖蒲
漢籍によって日本へ伝えられた同形語	首領・国家・衣服・事情・開拓 権利・学問・修身・風俗・体力
漢訳仏典に由来する同形語	煩惱・彼岸・因縁・世間・過去 迷惑・供養・極楽・道具・自覚
科学技術によって日本に伝えられた同形語	火山・温泉・太陽・赤道・恒星 秋分・梅雨・北極・岩石・天井
風俗習慣とともに日本へ伝えられた同形語	浴衣・草履・中秋・豆腐・納豆 相撲・競馬・正月・扇子・端午

### (2) 中国が日本から借用した同形語

中国語が日本から借用したのは主に日本の近世、近代の漢字による訳語ということになる。「訳語の借用」は日本語借用語の顕著な特色の一つである。佐藤喜代治(1982)『近代の語彙』によると、当時の日本人は次の三種類の方法で沢山の漢訳語を作り出した。

- ①西洋文化がすでに中国に移入され、中国で造られた訳語(中国語)をそのまま借用したもの(「英華字典」の訳語・宣教師の漢訳本の訳語など)。  
例えば：「銀行」「保険」など。
- ②本人がすでに存在している類似の概念を持つ漢語に新しい意味を付加したもの。例えば：「自由・演説・組織・文学・文化・文明・芸術・革命・思想・自然」など。

③日本人がまったく新しく造語したもの。「神経・哲学・美術・代表・独裁・学位・背景・原則・否定・義務」など。

日本語が中国語の中に流れ込む背景には、中国が西洋の新語を積極的に輸入する事情があるほかに、当時日本における新語の作り方にも原因がある。当時の日本では西洋の新語を訳すとき、少数の音訳を除いて大部分は意識をしていた。しかもみな漢字を使っていた。特に意識の場合は、きちんと中国語の造語法の規則を守って作られた。例えば、「断交」「動員」「投票」「作戦」「投資」「抗議」などの造語は、日本語の文法とは正反対である。こうしてできた日本の訳語が中国語の中に入っても、中国人はあまり違和感を持たなかったのである。時代の流れによって、千語あまりの日本語はすっかり中国語の中に定着して、現代中国語の中の不可欠な構成部分となっている。

以下、簡単明瞭に示すため、その代表的な例を分野別に表にする。

分野	同形語語例
学科名	心理学・経済学・建築学・自然科学・病理学・財政学・倫理学
文化教育	学位・会話・教授・単行本・出版物・参考書・教科書・図書館
電子学	調節・電流・電池・周波・電信・短波・低圧・電報・導電体
法学	仲裁・拘留・引渡・伝票・特権・法人・公証人・起訴・出廷
哲学	理念・抽象・直覚・概念・本質・否定・意識・意思・現象
政治	民主・運動・方針・幹部・主義・批判・政党・人為的・右翼
医学	注射・結核・胃炎・診断・伝染病・静脈・神経・消毒・甲状腺
経済学	分配・資本・指数・信託・企業・景気・破産・商品・生産関係

### (3) 同形語の現状

「登山・読書・学問」などの漢語はもともと中国から借用した外来語なのだが、すっかり日本語の中に溶け込み、もはや外来語という印象がなくなっている。日本の一般の国語辞典でも、漢語の占める割合は40%以上にものぼる。中国語の場合も同じようなことがある。中国語に受容された日本語語彙

の数も多く、特に重要なよく使う基本的な語彙がかなり日本語から取り入れられた。

高名凱・劉正琰『現代漢語外来詞研究』(1958)の中に、中国語になった中日同形語が全部で 450 語ほど紹介されている。さらに同氏他『漢語外来詞詞典』(1984)に掲載されている日本語出自とされる語の数は 893 語である。「場合・取消・文学・形而上学・電報」などがその代表的な例である。しかし一般の中国人はこれらが外来語だとは意識していない。完全に中国語の中に溶け込んでいるからである。

現代の日本では古い言葉が捨てられると同時に新しい漢語も生まれている。「汚染・公害・開発・運営・冷戦」などの日本語も中国語の語彙として現れた。なおこの 20 年来、中国は改革・開放政策を実施して以来、商業活動が盛んになり、日本語からの流入と思われる語彙がまた増加している。「～屋」・“精品屋”，「特価」・“特价”，「営業中」・“营业中”などがそれにあたる。

「特価」は台湾を経由して伝わったもので、始めは中国大陸では「特別に高い値段」の意味に誤解されたようだ。実際には『現代漢語辞典』(修訂本 1996)で調べてみると，“特价”は“特别降低的价格”で、日本語の「特別に安い値段」と変わりなく使われている。

「営業中」は、夏にクーラーの普及で商店などの入り口を締め切ることから必要な掲示となったものであろう。いままでは，“正在营业”が多かった。たぶん日本語のほうがより簡単明瞭なので、次第に普及してきたのである。

## 2. 中日同形同義語の翻訳

中日同形同義語とは、中国語と日本語の意味や用法が同じである同形語をさす。つまり、両国語の間でそのまま訳すことのできる同形語である。数を表す「一、二、三、四……」もそうであり、動物や植物の名前にも共通なものが結構ある。例えば「牛・猫・羊・牡丹・菊」など。科学技術や学術用語、

社会科学方面でも同形語が沢山ある。例えば、「哲学・宗教・政治・法律・地理・生物・数学」などはまったく同じ字を使っている。もちろん「経済」「植物」「薬学」「産業」「音楽」など中国のほうは簡体字を使っているが、やはり同形語である。そういう同形同義語は日本語の意味で中国語を理解することができるので、そのまま同じ言葉で翻訳することができる。

### 3. 中日同形異義語の翻訳

「同字同形」の言葉で意味がまったく異なるものがある。例えば、日本語の「検討」という言葉は「この問題についてはちょっと検討させてください」のように用いて中国語の“研究”とか“考慮”という言葉にあたる。つまり前の例文は中国語では“这个问题让我们研究一下”ということになる。

文化庁(1978)『中国語と対応する漢語』の(3)「日中両国語における意味が著しく異なるもの」の部分に、よく使われる中日同形異義語を集めているが、以下に、それに載っていない、いくつかの同形語を表としてまとめてみた。

同形語	中文和訳	和文中訳
茶碗	湯のみ	饭碗
心得	思想上の収穫	经验; 心得; 注意事项; 须知
縁故	原因・わけ	关系; 亲戚故旧
蔬菜	野菜	青菜; 蔬菜
結束	終わる・終わらせる	团结
小康	少し資産があって生活に困らないこと	(病) 暂时好转
覚悟	覚醒する	精神准备; 决心
出産	産出する	分娩, 生孩子
残品	きずもの	存货, 剩货

## 中日同形語の翻訳

信心	信念	信仰；信仰心
評判	勝負を決定する；審判する	评论；出名；传闻；评价；名声
用心	気を配る；努力する	小心，留神
先輩	優れた業績をあげた故人； 模範とすべき先人	前辈；比自己先入学，先到工作岗位的人
作法	やり方；方法	礼节；规矩；文章的写作方法
定食	定めがある食生活	客饭，份饭
出来	出てくる	制造；做成；成绩；质量；完成
方便	便利だ；都合がよい	权益办法；临时手段
被害	負傷；殺害される	灾害；损失
当家	一家の主となる；家事を切り回す	我们这家；本宅
手柄	とりて；ハンドル	功勋；功绩

こういう中日同形語は、日本語の字面だけから中国語の意味を憶測するならば、あるいは逆に中国語の字面によって日本語の意味を判断するならば、まったく見当違いの意味に解してしまう。日本語学習初心者はこの種の同形語の意味を誤解することがあるが、高学年になるとこの種の間違いはほとんど見られない。一度覚えたらあまり忘れることがないのである。この種の同形語を翻訳するとき、しっかりとその差異を頭に置いて異なる訳語を見つけなければならない。

## 4. 中日同形類義語の翻訳

この種の同形語は両国語でほとんど同じ概念または近似した概念を表すが、語義に微妙な差異がある。例えば、「医院」は中日とも人々の病気を治療する所だが、それぞれ規模が異なる。中国の“医院”の規模は比較的大きく、

日本の「病院」に当たるが、日本の「医院」は個人経営の診療所で、中国語の“诊所”に当たる。この種の同形語は差異が小さいだけに、詳しく弁別しなければかえって正しく翻訳することができない。

この種の同形語の翻訳については、次のいくつかの方面から考えてみる必要がある。

### (1) 語義範囲

例えば「愛情」・“爱情”という同形類義語についてみると、日本語では「母校への愛情」とか「仕事に愛情を持つ」というような言い方をするが、そのまま中国語に直訳して“对母校的爱情”“对工作有着爱情”とすると、中国語らしくない。なぜかという、中国語の“爱情”は様々な「愛情」の中でも特に異性間の「愛情」だけを指しているからである。だから“母校”や“工作”などには通用しないわけだ。これは「広義」と「狭義」の違いで、語義の範囲が違うのである。

中国語では“爱情”よりむしろ“爱”や“热爱”のほうが広く使われるようである。例えば「母校への愛情」とか「仕事に愛情を持つ」は“对母校的爱”や“爱上了工作”“热爱工作”と訳せばいい。もちろん、異性間の「愛情」にも“爱”が使えるので、中国語の“爱”は日本語の「愛情」と同じようにカバーする範囲が広い。

### (2) 語義の強弱

同形語における語感強弱の相違も十分注意すべき問題である。日本語の「反省」と「質問」は語義が中国語とほぼ同じであるが、中国語のように強い響きや語感を持っていない。

日本語の「反省」は、「自分を反省して恥ずかしく思う」“我反省是我错了”のようなセンテンスに使われただけでなく、「文化発表会の反省と感想」“对文化发表会的反思和感想”にも使われる。しかし中国語の“反省”は、日本語の「反省」より語感が強くて、重大な過ちを犯したときにしか使われない。



对一年来的所作所为，你认真反省吧／この一年のあらゆる行動を、きちんと反省しなさい。

日本語の「質問」と中国語の“质问”は、分からないことや知りたいことなど、相手に尋ねて説明してもらおうという基本的な語義においては一致している。しかし中国語の“质问”は、日本語の「詰問」に似ているところがあって相手を咎めるようなニュアンスがある。

老师质问我为什么不交作业／先生は私にどうして宿題を提出していないのか問いただした。

受到了科长的严厉质问／課長の厳しい詰問を受けた。

### (3) 喚情価値

「喚情価値」というのは中国語でいう“褒贬色彩”である。一部の同形語は中日両国語でほぼ同じ意味で用いられていても、評価の善悪が双方で異なる。

△ 研究上の重大な成果が生まれた。

△ 今日のコンサートに深刻な印象を受けた。

「重大な成果」とは「大きな成果」と言うべきであろうし、「深刻な印象」はむしろ「深い印象」「忘れがたい印象」というべきであろう。というのは日本語でいう「重大」は単に事態の大きさというのみならず、その事態が好ましくないものでなければならない。普通は「重大なミス」・(严重的错误), 「重大な事故」・(严重的事故), 「重大な結果を来す」・(带来严重的后果)などの使い方が見られる。「深刻」も「重大」と同じように喚情価値の中日の差が大きい同形語である。例を挙げると、

深刻な危機に陥る／陷入了严重的危机

経済摩擦が深刻化した／经济摩擦严重化

“深刻的印象”・「深い印象」, “深刻的体会”・「身にしみる体験」。中国の“深刻”は普通好ましい意味で用いるが、日本語の「深刻」は好ましくない場合にも用いられ、中国語の“严重”に相当する。

日本人は手紙の末尾によく「ご自愛下さい」と書くが、中国語では“请多保重”と訳すべきで“请自爱”と訳してはいけない。中国語の“自爱”は「自重する」という意味なので、“请自爱”といえは「自重しろ」と悪い意味になるからである。

高偉健は「喚情的前提に関する日中同形語の対象研究」の中で、「中立的用法とプラスの用法が共存しているもの」として「評価」を挙げた。

すなわち、①日本語の「評価」は喚情的前提がある。しかし、それは名詞の場合に現れ難くほとんど動詞の場合であり、その喚情的意味はプラスである。②中国語の“评价”は喚情的前提がない。したがって、訳文の上で“评价”が「評価」に対応できるのも喚情的前提がない場合に限るのである。例えば：

プロデューサーの考えているエンターテインメント性とは何かを具体的に見せたのは評価できる。／向人们具体地展示了究竟什么是制作人所考虑的演艺性，对于这一点我们可以给与积极的评价。

雇用面についてだけ見ても、プラスとマイナスの評価が入り乱れる現状にある。／从雇佣状况来看，评价有好有坏。

上の例文につけた中国語の訳を見ても分かるように、そのまま中国語の“评价”を使う場合もあれば、“评价”の前にプラス評価の語を付け加える場合もある。前者はニュートラルの場合で、後者はプラスの場合である。

名詞にもそういう状況が見られる。日本人は「他人」という言葉をよく使う。「他人行儀」「他人事」とか。中国語に“他人”という言葉があるが、無色の言葉で、日本語の「他人」のようなよそよそしい響きはない。

#### (4) 語の作用対象

これは語の組み合わせの一種で、述語動詞とその作用の及ぶ目的語との組み合わせである。つまりある動詞のとする目的語が人間なのか物なのかなど、両国語で違ってくるわけである。

病后得好生保養。／病後はよく保養しなければならない。

保養设备。／設備を保全する。

例文から分かるように、中国語の“保養”は人と物を対象にできるが、日本語の「保養」は人しか対象にできない。

病人の胸部が压迫された。／病人的胸部受到压迫。

言論を压迫する。／压制言论。

弹压される。／受压迫。

同じ「压迫」でも、中日両国語においてとれる目的語が同じ場合もあるし、それぞれ違う場合もある。

#### (5) 位相

社会層や場面の違いが語に反映して、特定の語が用いられったり、語が特殊な意味を持つようになることを「語の位相」というが、同じ物事を指し示すにしても、語種の違いによって、ニュアンスが微妙に異なってくる場合がある。

荒川清秀は「中国語と漢語」(1978)で、中国語が「同形」の漢語に対応するだけでなく、その漢語と同義関係にある和語にも対応するという現象を指摘している。すなわち例えば“危険”が「危険」と同時に、「危ない」にも対応する。

また、「起床」と“起床”はともに「朝起床時顔を洗わなければならない」「早晨起床要洗脸”のように用いることができるが、日本語では文章語的なものである。“我早晨七点起床”のような口語的な表現では、日本語では普通「私は朝7時に起きる」のように言い、「起床」を用いない。

## 5. 日本語教育上の留意点

中国人の日本語学習者についての教育論の立場からいって、中日同形語はもっとも干渉が起こりやすい存在である。母国語に由来する干渉を見つける

こと、そしてそれを克服することは教師にとっても、また学生にとっても、ともに重要なことである。中国語と日本語で意味が違っているのに、それを無視して中国語から類推するため中国語式の日本語になり、意味が分からなくなる場合が多くある。

このような問題を克服するには辞書を引き、文脈に従って、中国語と日本語それぞれにおける意味用法の異同をしっかりと把握する訓練を初歩の段階から行わなければ、正確な日本語は身につかないだろう。

同形語の中で、「一部重なっているが、ずれのあるもの」がもっとも困難である。日本語教師にとって、このタイプの同形語の「重なっている部分」はあまり問題ではない。大切なのは「ずれのある部分」を正確に見極め、これを学生に簡潔に説明できるかどうかということである。教師の説明が不十分不的確であれば、学生がこのような同形語の微妙な相違がわからず、しばしば誤用を生み出す。

例えば、「訪問」・“访问”という語は、中日とも「目的をもって公式に人に会う」時に用いる。他に日本語では個人的な付き合いにも用いるが、中国語ではそういう用法はない。しかし「私は北京で中国人の友人を訪問した」という文を、つい“我在北京访问了中国朋友”と訳してしまう。この場合の「訪問」は“看望”“拜访”などと訳さなければならない。

教師自身が資料や辞書などを使って中日両言語における同形語を比較対照しながら、語形・意味・用法の違い、教えるに当たってのポイントなどを研究しておくべきであると思う。だとすれば、指導の具体的な内容としては、いかなる重点をおくかということ、次のようなことが考えられている。

- ① この単語が中日同形語であることを学生に了解させること。
- ② その同形語について、中日それぞれの意味・用法・語感の相違点、共通点を明示すること。
- ③ 日本の漢語はもともと中国から入った語だが、日本で造語されたものも多いことに気づかせること。
- ④ 論理的な文章の読解や作文に必要な漢語について基本的なものを理解

させること。

- ⑤ 和語と漢語の使い分けを、具体的な文脈に即して実習し、語感、文体、表現効果などを考えた使い方を工夫させること。
- ⑥ 話し言葉と書き言葉、生活的な文章、論説的な文章などの違いについて具体例で考えさせること。

しかし同形語の相違を説明する場合、その違いをどの程度まで説明すべきかが大きな問題になるであろう。教師が持っている知識を生のまま全部学生に与えることはよいかと問われれば、答えは否定的である。学生の理解度、必要度に応じてポイントだけにとどめたり、主な用法だけ取り上げて後は切り捨てる場合もあろうし、より詳しく取り扱わなければならない場合もあろう。

## おわりに

翻訳の角度から見た場合、語彙の面で一番重要なのは中日同形語であると言えよう。しかもこれはきわめて重要な問題で、翻訳の成否・よしあしを大きく左右する。

以上、中日同形語の中でも異義語の違いをいろいろな角度から分類整理してみたが、もちろん実際にはその違いをいずれか一つに類別できるとは限らず、時にはいくつかの側面から判別しなければならない。

一般に中日翻訳の方法として、「倒訳」(中国語と日本語は語順が違う)、「加訳」(空白のところに意味を見出し、相応しい訳語を入れる)、「不訳」(原文にある言葉を省略する)、「分訳」(一つの文を分割して訳す)、「変訳」(文の要素や品詞を変換させる)などが挙げられる。中日同形語の場合は、特に「変訳」の方法を用いて翻訳すべきである。「表現」を例にとってみよう。

作者的意图得到了充分的表现。／作者の意図がよく表現されている。

他无私的精神表现在各个方面。／彼の公正無私の精神は様々な面に表れて

いる。

他的表現和成就令人佩服。／彼の行動と成果は敬服に値する。

她自我表現欲太强。／彼女は自己顯示欲が強すぎる。

他总要表現自己。／彼はとにかく自分をひけらかしたがる。

她在工作中表現得很好。／彼女の仕事ぶりはとてもよい。

まとめてみると、同じ“表現”と言う言葉が、異なる意味を表す時、それと相応する日本語訳も違うわけである。したがって、これらを一概に日本語の「表現」と翻訳してはいけない。文の前後関係に応じてよく考えて訳さなければならない。

これからも日本語教育の最前線に立って、中日同形語の翻訳問題を検討していきたいと考えている次第である。

## 参考文献

- 劉正・高名凱・麦永乾・史有為 『漢語外来詞詞典』1984 上海辞書出版社  
中国社会科学院語言研究所詞典編集室 『現代漢語詞典』1998 商務印書館  
相原茂・荒川清秀・大川完三郎 『東方中国語辞典』2004 東方書店  
北原保雄 『明鏡国語辞典』2005 大修館書店  
上野恵司・魯曉琨 『おぼえておきたい日中同形異義語 300』1995 光生館  
森岡健二 『日本語と漢字』2004 明治書院  
張麟声 『日中ことばの漢ちがい』2004 くろしお出版  
佐藤喜代治 『近代の語彙』1982 明治書院  
沈国威 『近代日中語彙交流史』1994 笠間書院  
何培忠・冯建新 『中日同形詞浅説』1986 商務印書館  
今富正巳 『中国語⇔日本語翻訳の要領』1988 光生館  
武吉次朗 『中国語翻訳・通訳ハンドブック』1985 東方書店

## 中日同形語の翻訳

- 遠藤紹徳・武吉次朗 『新編・東方中国語講座 第4巻【翻訳篇】1990 東方書店  
芝田稔 『日本中国ことばの往来』1987 白帝社  
藤堂明保 『漢語と日本語』1979 秀英出版  
大河内康憲 「日本語と中国語の同形語」 『日本語と中国語の対照研究論文集』(下)  
1992 くろしお出版  
候仁鋒 「日中言語における同形語の相違点についての考察」 『日本語教育国際シ  
ンポジウム論文集』1993 西安交通大学出版社  
本林教衡 『通訳ガイド 中国語 過去問解説』2004 法学書院